

ドクターの紹介

 院長 倉津 純一	脳神経 外科	 岡田 純一	外科	 西田 佳子	糖尿病 内科
 副院長 坂本 興美	内科	 賀来 藍子	脳神経 外科	 長谷川 雄	脳神経 外科
 副院長 吉永 健	呼吸器 内科	 川寄 真	リハビリ	 八田 泰彦	外科
 院長補佐 中村 正	リウマチ 膠原病 内科	 古閑 幸則	放射線科	 馬場 トモ子	内科
 院長補佐 蓮尾 友伸	外科 麻酔科	 酒匂 敬子	歯科	 平島 まさ子	内科
 院長補佐 三原 洋祐	脳神経 外科	 佐野 収	外科	 藤井 裕己	循環器 内科
 院長補佐 森上 靖洋	循環器 内科	 白石 直樹	内科 腎臓内科	 藤本 歌織	腎臓内科
 青木 志保	呼吸器 内科	 白石 文美恵	麻酔科	 名誉院長 松田 正和	外科
 特別顧問 池田 信二	外科 小児外科	 瀬上 一誠	消化器科	 安田 広樹	呼吸器 内科
 石原 まゆみ	内科	 中村 淳子	小児科	 山本 亮史	外科
 岡 和宏	精神科	 西田 英史	外科		

病院概要 (2020年7月1日現在)

■ 診療科目 21科目 - 内科 - 外科 - 脳神経外科 - リウマチ科 - ﾘﾝﾍﾞﾗｰｼｮﾝ科 - 呼吸器内科 - 循環器内科 - 消化器内科 - 脳神経内科 - 麻酔科(白石文美恵) - 小児科 - 歯科 - 消化器外科 - 漢方内科 - 整形外科 - 肛門外科 - 小児外科 - 皮膚科 - 放射線科 - 精神科 - 糖尿病内科	■ 総病床数 630床 - 地域包括ケア病棟 45床 - 回復期リハビリテーション病棟 60床 - 障害者施設等一般病棟 163床 - 特殊疾患病棟 60床 - 医療療養病棟 277床 (在宅復帰機能強化型) - 緩和ケア病棟 25床	■ 施設の特徴 - 在宅療養後方支援病院 - 脳卒中リハビリセンター - 呼吸器センター - 血液浄化センター - リハビリテーションセンター - 心大血管疾患リハビリテーション科 (I) - 脳血管疾患等リハビリテーション科 (I) - 運動器リハビリテーション科 (I) - 呼吸器リハビリテーション科 (I)
■ 関連施設 - 桜十字熊本東病院 - 介護老人保健施設 レ・ハビリス桜十字 熊本東 - 介護付き有料老人ホーム ホスピタルメント桜十字 - 住宅型有料老人ホーム ホスピタルメントさくら西館/西館PLUS - 住宅型有料老人ホーム ホスピタルメントさくら東館 - 地域包括支援センター ささえりあ あさひば	■ 在宅サービス ＜居宅介護支援事業所＞ - Let's ケアプラン! (桜十字・熊本東・熊本北) - ケアセンター桜十字 ＜訪問診療＞ - 桜十字熊本東病院 - 桜十字クリニック ＜訪問系サービス＞ 【訪問看護】Let's ナース! (桜十字・熊本東) 【訪問介護】Let's ヘルパー! (桜十字・熊本北) 【訪問リハ】Let's イエリハ! 桜十字 【福祉用具貸与】Let's レンタ! 熊本北	■ フィットネス事業 ＜デイサービス＞ - Let's リハ! - 四方寄店・富合店・神水店・光の森店 田嶋店 - Let's リハ! in the mall - サンピアン店・はません店 大江店・ゆめタウン八代店 イオンモール熊本店 - Let's リハ! 近見店 ＜デイケア＞ - Let's リハ! PLUS 桜十字・熊本東

桜ふわり

S a k u r a F u w a r i

号外

2020
Summer

02.20▶02.21 JCQHC
2020 病院機能評価Report

病院機能評価 2020.02 受審

慢性期病院として 全国ナンバーワン S評価を 9個獲得!!



認定
慢性期病院
1位

全国の慢性期病院を主たる機能とする機能評価認定病院

2020年6月5日時点

S 評価数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 以上	合計
病院数	80	28	26	4	5	5	3	1	-	1	-	153
構成比	52%	18%	17%	3%	3%	3%	2%	1%	0%	1%	0%	100%

公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

病院機能評価結果の情報提供ホームページより

「病院機能評価」は 日本医療機能評価機構による評価です

患者さんの命と向き合う病院には、その医療の質を担保するために備えているべき機能があります。

国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする公益財団法人として1995年に設立された日本医療機能評価機構は、病院が備えているべき機能について、中立・公平な専門調査者チームによる「病院機能評価」審査を行い、一定の水準を満たした病院を「認定病院」としています。



最新の機能種別版評価項目 3rdG:Ver2.0にて受審した全ての病院の結果

【参考】 全ての病院

S 評価数	0	1～2	3～4	5～9	10 以上	合計
病院数	142	165	50	33	8	398
構成比	36%	41%	13%	8%	2%	100%

病院機能評価データブック P.50 より (2020 年 5 月発行)

全病院
9位



県下最大級700m² 最新鋭リハビリ機器を配備！



program

復職支援



program

自動車運転再開支援



社会復帰サポートプログラム

Support Program for Reintegration into Society



program

高次脳機能訓練



program

川平法

県内最多 168 名のリハスタッフが在籍

2020 年 4 月 1 日時点



88 名

理学療法士



47 名

作業療法士



28 名

言語聴覚士



5 名

歯科衛生士

チーム医療による
診療・ケアの実践
2.2.18

慢性期のリハビリテーション・ケアを適切に行っている

【審査結果報告書】

療養病棟では、月13単位以上のリハビリ介入があり、患者の90%以上にリハビリを実施している。入院時に看護師が摂食嚥下スクリーニングを行い、VF検査を年に17件、VE検査を年に65件実施している。ほぼ全患者が歯科受診し、看護師・歯科衛生士による口腔ケアやパタカラ体操以外に、歯科衛生士・ST・看護師による摂食機能療法を年に13,060人に実施している。経管栄養患者が比較的多いが、クチタベ入院患者も含めて経口摂取が可能になった約20例／年があり、評価できる。農園の集団活動後、収穫した野菜を患者が加わって調理して食べる活動も高く評価できる。リハビリ療法士が栄養管理計画書に記載した1か月後の活動係数を参考に、「リハケア栄養」として管理栄養士が関わり、退院時の体重減少が少なくなっている。また、「リハ薬剤」の活動も開始したところである。神経内科、脳神経外科常勤医の関わりがあり、コミュニケーション障害へも対応している。



健やかな地域をつくる

NST 研究会 10 周年記念講演



地域交流お花見の会



第142回生き生き健康教室

情報発信と連携
1.2.3

地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている

【審査結果報告書】

健診センターでは、巡回バスによる健診も実施している。生き生き健康教室（40歳以上対象）は、毎月1回開催しケアや介護など多彩な内容で2007年より継続している。公民館などでの出前講座（年3回）では、リハビリ体操なども行い、健診センターでは健康講座を年3回実施している。地域交流を目的に「お花見会」を毎年開催し、幹部職員も参加し、地域の意見・要望も傾聴している。小児科では各学校で感染予防など保護者への啓蒙活動を行っている。また、失語症友の会が主催する「ともにスピーチ」を2015年から地域の病院・施設と協働で実施している。テレビ熊本が実施する脳疾患や呼吸器疾患のセミナーも関係職員が担当している。NST研究会は毎年、地域の医療従事者を対象に研修会を実施し、2019年は10周年記念の特別講演を行い、450名程が参加している。口から食べるプロジェクトへの取り組みは、食事サポート養成講座や食事サポーターインストラクターコース、介護食料理教室、有料老人ホームなどへの「クチタベ」（口から食べる）の出前講座を行っている。リハビリ部門での講座や緩和ケア家族会の開催など、その活動や姿勢は高く評価できる。



私たちの道しるべ。

15年間で 22,119 通の
お便りをいただいております。

継続的質改善の
ための取り組み
1.5.1

患者・家族の意見を聞き、質改善に活用している

【審査結果報告書】

意見・苦情等の収集は、意見・要望BOXを専用用紙と共に病棟など14か所に設置し、理事長直通便としてパンフレット類やホームページに説明している。専用用紙はBOXへの投函も可能であるが、その場で記載できないことを想定し郵送もできる。患者さま満足室を設置し、専従職員が意見・要望への対応を主導している。外来・入院患者の患者満足度調査は年2回実施し、患者さま満足委員会（毎月開催）で意見・苦情も含め対応している。対策は直接回答を基本とし、院内掲示も行い、理事長直通便は遅くとも翌月までに返答している。また、意見などは各部署にフィードバックし、原因を把握している。対策は実施後、1・3・6か月後に対策効果を評価し、継続的なモニタリングと評価も行っている。意見・要望に対する改善事例は確認でき、苦情に対しては苦情対応の流れ、苦情・クレーム対応マニュアルをもとに組織的に検討している。患者の声から紹介入院・退院について、紹介元（急性期病院等）だけでなく、かかりつけ医や施設などにも情報をフィードバックする活動も始められている。患者さま満足室や患者さま満足委員会の活動や取り組み姿勢は高く評価できる。



桜十字の栄養サポートチーム
NST Nutrition Support Team
桜十字
生きる力

口から食べるプロジェクト

口から食べるをあきらめない

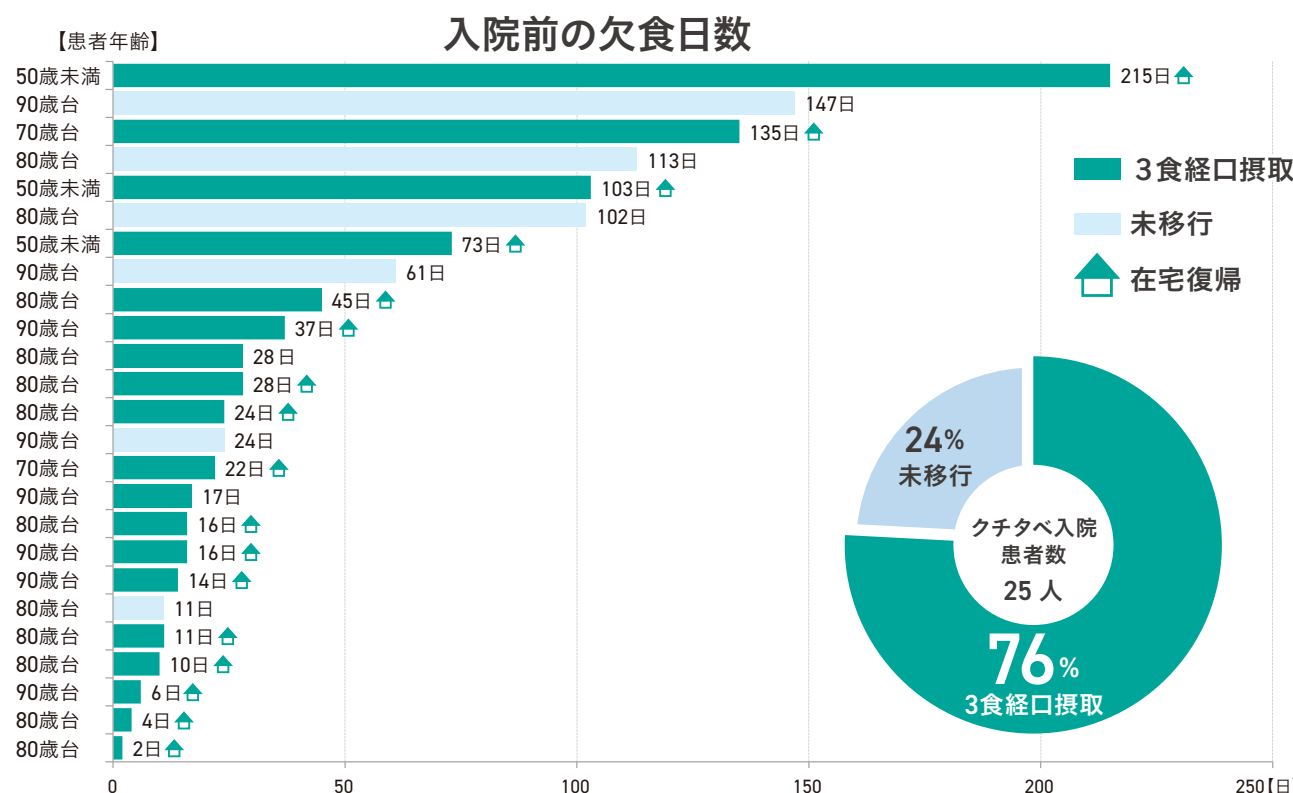
NST（栄養サポートチーム）による包括的アプローチを実践

クチタベ入院の 76%が 3食経口摂取へ

2019年実績

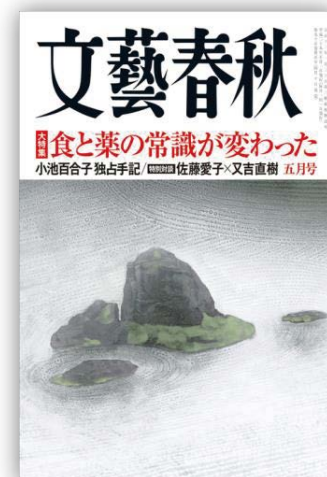


出典：小山珠美（編集）：口から食べる幸せをサポートする包括的スキル-KT バランスチャートの活用と支援，P137-71，医学書院，2015。



チーム医療による診療・ケアの実践 2.2.16 栄養管理と食事指導を適切に行っている

【審査結果報告書】
入院時に管理栄養士がグリム評価を用いて低栄養リスクを把握し、歯科衛生士は入院患者全員の口腔の状態を把握している。NSTチームが関与し、対象者にはKTバランスチャートを用いて計画立案している。また、「口から食べるプロジェクト」が設置され、マネージングドクターとして呼吸器内科の医師と検査医師、ディレクター看護師（KTSM技術認定者）を中心に管理栄養士・歯科医師等の多職種から構成されている。1年間食べられなかった患者が5か月後に軟飯・きざみ食で必要カロリーが摂取できるようになった実績がある。チーム活動の一環として食事サポート養成講座の開催や、介護食料理教室を開催するなど多岐に渡っている。食事環境・姿勢の調整を行い、食べたい意欲をサポートするために四季彩膳や郷土食バイキングなどを取り入れ、栄養・食事への種々の活動は高く評価できる。



“文藝春秋”2017年5月号にて
桜十字病院が紹介されました！

小山珠美先生の記事にて、
全国における希望の光
として掲載。



NPO法人 口から食べる幸せを守る会 理事長 小山珠美



継続的質改善の
ための取り組み
1.5.3

業務の質改善に継続的に取り組んでいる

【審査結果報告書】

病院機能評価の受審は 3回目であり、病院幹部を中心に組織的に検討・対応している。月1回の患者さま満足委員会や医療安全管理委員会が中心となって個別の課題に取り組んでいる。2008 年から毎月1部署の職員表彰を行い、毎年院内学会を開催し、各部署や多職種チームでの様々な取り組みの成果を発表している。苦情を契機に看護・介護職のオムツ交換、体位変換等の技術研修を長期的に行い、2017年ケアリンピックとしてトーナメント審査を行い表彰した実績は評価できる。各種立入検査における指摘事項には適切に対応して改善している。



良質な医療を
構成する機能1
3.1.4

栄養管理機能を適切に発揮している

【審査結果報告書】

食材搬入から食器保管まで一連の流れでの衛生管理は良好である。調理室の床はドライ使用であり、清潔・不潔の区別も色分けしている。調理器具の保管などの衛生面も問題ない。栄養管理部の事務室は透明ガラスのため廊下からオープンに見ることができ、清潔感のある事務室である。嗜好調査は年2回行い、若年層の入院増加により嗜好も多様化しており、病棟にリクエストボックスを設置し、患者のリクエストに応ずる「リクエストメニュー」にも取り組んでいる。「日本を旅する故郷の味めぐり」と称し、摂食量増加を目的に各県の代表的な食を週1回提供し、1年で日本一周するユニークな取り組みを継続している。四季彩膳は、四季を飾る食材や普段使用しない食材を取り入れ、月1回の行事食として弁当箱やプレートにて提供し、家族にも同じ食事を提供しており、患者と一緒に楽しめる行事である。また、誕生日にはバースデーケーキを作り、バイキング形式でおやつを選ぶことができる楽しい企画も行っている。水分補給のためお茶ゼリーなどの工夫もあり、食器類は全て砥部焼で使い勝手を検討したオリジナルの陶器を使用し、種々の取り組みは高く評価できる。



「まってるラウンジ」



まってる。
著/デヴィット・カリ イラスト/セルジュ・ブロッタ 訳/山崎実
発行/千景書房



九州ではここだけ！
柴野大造氏のマルガージェラート



明日が楽しみになる本
BACH 幅允孝氏による400冊の選書



最高級の万年筆をご用意
パーカーデュオフォールドビッグレットCT

療養環境の整備と利便性 | 患者・面会者の利便性・快適性に配慮している 1.6.1

バス停は病院前にあり、総合案内にはケアワーカーを配置し、売店は365日稼働し、品数も整っている。また、入院患者は入院費と一緒に精算可能である。洗面・整容など入院生活を支える設備面は整い、携帯電話は使用場所を明示している。正面玄関のエントランスを通ると「まってるラウンジ」がある。「フィルカフェ」は、平日10:00～18:00の運営である。「まってるライブラリー」は、自然・動物、家族の在り方、噛みしめる言葉など11のジャンルで書籍・雑誌を整えている。「レタールーム」は3種類の便箋を準備し、①入院患者や隣接のホスピタルメント入居者に宛てた手紙、②患者自身が退院する日の自分に宛てた手紙、③友人や家族に宛てた郵便（切手必要）に区別し、「まってるポスト」も3種類の投函口がある。また、室内には色鉛筆やインク、水彩マーカー、万年筆なども準備している。「シェアルーム」は、完全予約制で家族などと貸し切りでプライベート時間を過ごすことができ、ケーキの予約も可能である。「まってるラウンジ」の配慮は高く評価したい。院内ギャラリーでは絵画を毎月入れ替え、美花隊（専門スタッフ）による季節の花も植えている。



その想いとどける



継続的質改善の
ための取り組み
2.2.19

療養生活の活性化を図り、自立支援に向けて取り組んでいる

【審査結果報告書】

月に1回、イベントに合わせて行事食が提供され、家族の参加もある。家族と共に特別な日を迎えられるように、孫の誕生会や成人式、結婚式と一緒に楽しんでもらえる「シェアルーム」があり、月に21件ほどの利用がある。また、「まってるポスト」が設置され、家族からの手紙や「退院後の私」などを書いて投函し、患者自身に届けられるシステムがある。患者の社会復帰への意欲を高める取り組みがあり、高く評価できる。



だから、がんばれる



敷地内
保育園
kindergarten



バイキング形式
社員食堂
company
cafeteria



2017年
社員旅行
シンガポール
Company trip

人事・労務管理
4.2.4

職員にとって魅力ある職場となるよう努めている

【審査結果報告書】

入職者には、採用後20日、1か月、6か月、年後に面談が行われている。看護部運営会議やリハビリ部運営会議、外来運営会議、薬剤科会議などミーティングが行われている。また、職員満足度調査も実施し、ハラスメントの相談も含めLINEで相談できる体制である。保育所は病児保育も可能であり、病院敷地内のため小児科受診も可能である。職員食堂は手作りにこだわったバイキング方式で提供し、大盛りでも料金の半額350円の自己負担である。食事内容は季節の食材も活用し評判が高く、職員以外の外部からの依頼に対応するため限定20食（予約制）をフィルカフェで提供している。職員宿舎は、看護・介護職や新入職者を対象に整備され、売店では社員証カードを利用し、給与控除も可能である。慶弔制度もあり、国内外への社員旅行も毎年実施している。プライベートビーチやグループの体育館の利用、ジム施設の社員割引、子供の就学時のお祝い品授与、バースデーケーキ支給など多くの福利厚生の制度がある。就労支援は、夜勤専従看護師や育児短時間勤務、勤務時間のスライド制を導入し、復帰時のフォローアップ体制も構築している。職場環境への姿勢は高く評価したい。